

陸上競技部

平井健太郎選手

インタビュー

周囲から勉強中心の大学と思われがちな京都大学。それでも多くの部活はより上の大会、よりよい成績を目指して日々努力しています。今回は陸上競技で優秀な成績を残している平井健太郎選手にインタビューをしてきました。(桃豆・このは)

「後悔のないように生きる——」

PROFILE

1993年5月1日生まれ、兵庫県宝塚市出身。宝梅中学校時代はサッカー部に所属。報徳学園高校で本格的に陸上競技に取り組み、2年時に県ユース対抗選手権5000mで優勝。2012年に現役で京都大学農学部食料環境経済学科に合格。京大陸上競技部に所属し、2014年日本学生対校選手権10000mで2位に入るなど活躍。自己ベストは5000m14分00秒13、10000m28分36秒72。

平井選手と陸上競技

——少年時代について教えてください。

小学校3年生から中学校3年生までは陸上競技ではなく、サッカーをしていました。少年サッカーのチームに所属していて、そんなに強いチームじゃなかったんですけど、楽しくやっていました。チームでの練習は土日だけだったんで、平日も学校の友達みんなが集まって遊びとしてサッカーをしていましたね。ただサッカーは単純に楽しいからやっていただけなので、今ではあまりやっていないです。陸上競技って体をすごく大事にしなきゃいけない競技だし怪我也怖いんで、今サッカーをするのは怖いですね。

——陸上競技はいつ始めましたか？

中学校のときはサッカー部だったんですけど、3年生の終わりに学校で選抜チームを作って駅伝に出ようということになり、そこで選ばれていい結果が出せたんです。それがきっかけで始めました。それまでもサッカー部で走り回っていて、走ること自体は結構好きでした。陸上競技を始めるにあたって、短距離よりむしろ長距離の方が得意だろうという気持ちもあったんで、長距離一筋で今までやってきています。

——高校時代について教えてください。

高校時代は1500mと5000mを中心にやっていました。練習も高校のときはしんどいことばかりだったのもう必死でくらくつくことしか考えてなかったです。今となってはすごく意味のある3年間だったと思いますけど、練習しているときは必死でしたね。

一番印象に残っているのは、高校3年間の中で高校2年生の県のユース、つまり新人戦ですね。そのころの自分は県大会で勝って、表彰台に乗るということは全く考えられないような選手だったんです。でも、夏合宿で本気で県で優勝したいなという気持ちを持ち、それから1ヵ月半ほどずっと「優勝しよう、優勝しよう」という気持ちで過ごしました。新人戦のときは持ちタイムでいったら、たぶん全体で10番目くらいだったと思うんですけど、その試合で優勝して初めて県でタイトルをとれたんです。その思い出は忘れられず、高校の先生ともいまだにその話になることがあります。長距離という種目はやればできるということを感じて、今もそう思ってますけど、高校2年生の新人戦がそれを身をもって感じるきっかけになったレースだと思います。

——合宿がターニングポイントになったということですか？

まあ合宿もありましたけど、自分の気持ちですね。絶対に県で勝とうと決意して、そこから日ごろの生活、練習や合宿を過ごして、それで優勝までもっていったと思っているので。だから合宿というよりは決意したということ自体ですね。

——大学での陸上競技のことについて教えてください。

僕は陸上競技部に所属していますが、普段はひとりで練習しています。鴨川の河川敷と農学部のグラウンドと北白川にある瓜生山の登山道、その3つをメインコースにしています。時期にもよりますが一日で多いときは35km前後、レースが近いと25km前後くらい走っていますね。

——ひとりで練習していて妥協したくなるときはありませんか？

目標がしっかり定まっていて、決意ができているときっていうのは、自然と退路を断って逃げ道を作らないようになっていますから。だからあまり妥協しようとは思わないですね。

——部活とはどのような形で関わっているのですか？

自分は陸上競技部全体の副キャプテンで長距離パートのチーフなんですけど、副キャプテンとしてはなんとなくみんなを見て、気になったことがあれば声をかけるくらいですね。長距離のチーフとしては、うちはスタッフがいないので、そのスタッフのようなことをやっています。京大の陸上競技部には指導者もいないので、試合に出る人の管理をしたり練習メニューを考えたりもしています。

——今でも大会に出ているのですか？

いくつか出てますね。大きな大会とかは年に何回もあるわけではないんですけど、ひとりで練習しているので、追い込みきれない部分もあります。だから、たとえば市民ランナーの川内選手とか有名ですけど、あの人がやってらっしゃると同じようにレースに出て、他のチームの選手と競い合って、周りの目があるっていうのを利用して、試合で自分を追い込むということもあります。

次ページへ続く ➡➡

はみだし すてーじ

おなががはみだしてきました。
⇒食欲の秋ですね。

はみだし すてーじ

はみだしすてーじに載らない月が多くて…
⇒気づいたらはみだしてますよ。

(農・3 世の中つらい)
(またのご投稿お待ちしております；編)

(工・院 とくめい)
(はみだしの季節；編)

京大での学び

——京大を受けた理由と京大の印象は？

中学校高校とずっと勉強が好きで楽しくやっていたんです。高校のときも先生やチームメイトの理解があってずっと勉強との両立という形で陸上競技をやらせてもらいました。だから、陸上競技と勉強を両立しつつ、せっかくなのでレベルの高い大学で過ごしたいと思いました。でも、実際に入ると面倒なところも時々あって、議論しなくていいところを議論する人もいますよね。そんな理屈っぽく喋らなくても、「オッケー、オッケー！」みたいな感じで、もうちょいシンプルに生きようぜ、って思います（笑）。

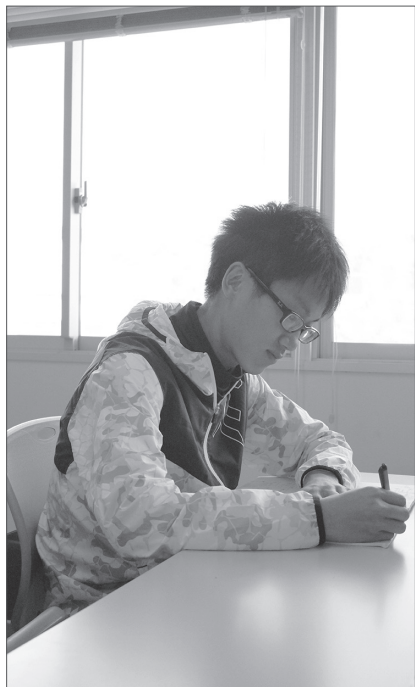
——農学部で勉強していることは？

今までやってきたことは幅広いんですけど、僕が今勉強しているのは国内の農政で、たとえば農地とか水田とかの問題についてですね。農業といっても実はいろいろあるんです。ただ、普通の人に興味をもちやすい環境問題とか食料問題に比べると、農業問題って地味だしわかり

にくいんですね。でも、僕の指導教員である伊藤順一先生の授業を聞いていると農業問題って面白いなっていうのを感じて、それで伊藤先生のもとで勉強させてもらっています。

——具体的にどのようなことを研究していますか？

今研究しているのは集落営農っていうものです。集落営農っていうのは地域単位で農業をやろうというもので、90年代くらいから政策的に進められ始めたんです。日本の水田農業が衰退の一途をたどる中で、集落営農を新たな担い手として期待する動きが最近あるんです。その集落営農を立ち上げるために、研修会をしたり、いろんな知識を講演会で教えたり、先進地域の視察に行ったりだとか、そういういろんなソフト事業に行政が今取り組んでいます。僕は、それが実際にどの程度効果があるのかを研究しています。つまり、ソフト事業の政策評価をしているんです。



▲農学部総合館にて勉強風景

普段の暮らし

——アルバイトはしていますか？

3年生までは塾の講師をやっていました。でも、アルバイトをしていると陸上競技にも勉強にも支障がでるので、できればしない方がいいのかなと思い、4年生になってからはやめています。アルバイトは大学生のうちしかできないですし、卒業論文が早く終わったら、ファストフード店とかそういうところで働いてみたいなって思っています。それはお金がどうかじゃなくて、飲食店の裏側ってどうなっているのかなっていう興味からなんですけどね。

——京大でお気に入りの場所は？

TULLY'S COFFEEで生暖かったり肌寒かったりする外気に触れながら本を読むのが好きです。空調があまり好きじゃないんですよ。山とか海とか川とかの自然が好きです。あと、理学部6号館の下のピロティもすごく好きですね。



▲時計台下TULLY'S COFFEE



▲理学部6号館下ピロティ

——趣味はありますか？

探検したり散歩したりすることですかね。たとえば未開の山とか町とかぶらぶらして、こんなものがあったんだ、こんな道があったんだとか見つけています。

スポーツ選手の中には競技の始まる前なんか音楽を聴く人もいますが、僕は普段もそうですけど競技の前も音楽を聴くことはあまりないですね。

——食生活はどうしていますか？

自炊はしていません。普段は家の隣の定食屋などに行っています。以前は、大学の食堂とか友達が気に入っていたインドカレー屋さんとかと一緒に行ってましたね。大学の食堂では鶏きも煮をよく食べています。鶏のレバー自体は嫌いなんですけど、陸上競技で鉄分は大事だし毎日意識しながらとっていますね。最近は何を食べるかというのにさらに気を付けるようになりましたね。

(工・5 木枯らし一号)
(でも寺でもっと徳を積みばきつと何かが……；編)

支えとなるもの

——今までの人生の中で大きな存在は？

当然ですけど、親が一番大きいと思います。そして高校の陸上部の先生も。基本的に高校の先生に言われたことは競技に関してもそれ以外に関しても「そうやなあ」と思うことが多いです。多岐にわたっているいろいろなことを教えてもらったので、一言でいうのは難しいですけど、若くして人生とはこういうものだよって教えてもらいました。あるとき、「うまくいかないのが普通や」と言われたんです。僕もうまくいかないのが普通だからうまくいかないときにがんばらなきゃいけないと思うんですよ。「うまくいなくても投げ出さないで、目の前にあることを大事にしろさいよ」ということが、僕が先生に教わったことですね。

——長距離種目の魅力について教えてください。

普通、スポーツで結果を残すために一番大事なものは、僕は才能だと思ってます。でも、長距離、特にマラソンやハー

フマラソンっていうのは、努力とか自分の気持ち、そして行動で結果を変えていける割合がすごく大きいと思います。それが魅力だと僕は思っています。自分は長距離に関して全然才能がないと思っていて、自分よりセンス、才能がある選手っていっぱいいると思います。でも、だからといって諦めずに決意をもってやるべきことをやっていれば、大事な場面で生きることがあるというのが面白いところだと思います。

——座右の銘はありますか？

「一所懸命」っていう言葉ですかね。目の前のことで強くもなれるし弱くもなれるっていうのをパッとあらわしているところが好きです。あとは「疾風に勁草を知る^{けいそう}」っていう言葉ですね。これは逆境に立ったときに本当に強い人間なのか本当は弱い人間なのかがわかるっていう意味の言葉なんですけど、やっぱり、しんどいときにこそがんばらないといけないと思いますね。



▲2014年全日本駅伝大会にて

未来に向けて

——これからの目標は？

僕は2020年の東京オリンピックに出場して、マラソンで銅メダルを取るのを目標としています。現在マラソンの日本記録は10年以上更新されておらず、ちょっと行き詰まっている感じなんです。いろんな新しいトレーニングとか研究がなされて、海外のレベルはどんどん上がっている一方で、日本って今まで通りの古い練習ばかりやっているとこがあって……。でも、自分は新しいことをどんどん取り入れて、日本の新しいマラソンの道筋を作っていきたい。そしてやるからには結果を出したい。やっぱりマラソンっていうのは気持ちと理屈が大事だと思うし、理屈を考えられるのが自分の良さだと思っているんです。

——東京オリンピック以後は？

東京オリンピックでメダルを取ったら僕は引退するつもりです。でも、出ただ

けで満足して引退するかもしれないですし、出られなくても疲れて引退するかもしれないし。逆にメダルを取っても、次は金メダルがほしいって気持ちになるかもしれないですし、結局わからないです。とりあえず、2024年までと思うと長すぎてしんどいので、あと5年で目標を持ってやるために2020年で引退するつもりでやります。実際にはいろいろと考えすぎていて考えていないも同然ですね。今は目の前のことでいっぱいです。

——京大生へ向け一言お願いします。

京大は勉強する大学だと思うし、多大な税金をかけていただいているわけなので、最低でも勉強はちゃんとしなさいといけないなと思います。それとあえて言うなら、入ったことに満足するんじゃなくて入ってから何をするのがすごく大事だと思いますね。

——ありがとうございました。

(理・院 よろこび)
(就活の深い闇を察する；編)



▲クスノキ下にて撮影に応じてくれた平井選手

はみだし
すてーじ
就活つらたん…
⇒ペンネームが合わさると

はみだし
すてーじ

わざわざ寺に行かなくても男子校に行けば悟りは開けますよ
⇒わかります (男子校6年の顔)